

## 「私の信仰の歩み」

石川万奈美

私が初めて教会に行ったのは小学校低学年の時でした。  
アメリカに住んでいたクリスチャンの伯母が帰国すると一緒に連れて行ってくれました。  
そこは私にとって異空間であり子供心に清らかさを感じる時間でした。  
あの暖かい喜びを感じる時間はしっかりと心に残り教会に行くことはなくとも時々、思い出していました。  
大人になって勿論たくさん様々な苦しみ、悲しみ、悔しさを経験しました。  
通勤電車から見る丘の上に十字架を見るたびに胸が熱くなりました。  
また、クリスマス時期には、教会に来ませんか？というメッセージを見ると心が揺れました。  
今になれば神様とつながってメッセージを受けていたのだと思います。

私は金沢文庫教会に来るまでに夫の仕事がうまくいかない事があり、途方に暮れていました。生活はどうなるのであろうか、夫の仕事はどうなっていくのか、そんな不安との闘いでもう自分を奮い立たせるのにも気力に限界がきていました。毎日、毎日が不安でした。  
なぜ、こんなことになるのだらう。〇〇が悪い、〇〇のせいだ、そんなことばかりが頭の中を一日中巡っていました。  
そんな時「うちの両親が牧師をしている教会に行ってみて!!お説教は心が震えるよ。そして讚美歌を思い切り大きな声で歌ってきてごらん」と、メッセージをくれた友がいました。  
牧人先生、恵先生のお嬢さんの真奈さんでした。  
教会に行きたい、でも何だか行きにくい・・・そんな葛藤の数週間がすぎました。  
ドキドキしながら、小さくなり、教会に一步踏み入れるとそこには子供の頃に教会で見たような懐かしい明るい光がありました。それからは不思議です。バプテスマを受けたい、学びたいという気持ちに変わり、その気持ちは揺るぎませんでした。  
私は、聖書をひたすら読み、コリント人への手紙第一・12章にたどり着きました。  
7節～11節はまさに私が証をするためのものでした。  
私は苦難の真最中、だめだ、だめだ、と人を責め続け暗い穴に入っていたのに、突然「そうだ、こんな切り抜ける方法がある」「～を活用する方法があるかも」等、次々に冷静に思いついていったのです。  
本当に突然頭に入ってきたのです。  
まさに神様、イエス様からの聖霊の力により知恵が与えられました。これに気が付き私にはただただ、感謝の気持ちが溢れてきました。  
そこからは我が家は地道ではありますが、軌道修正の道に入ることができました。  
今でもまだまだ学びの足りない私は嫌なことがあったり、悲しいことがあると元気がなくなり「今日は教会に行く気持ちになれないなあ」と気持ちが逆戻りしてしまう事があります。

そんな時は教会についても、またしても体も声も小さくなっています。しかし教会に入り暫くすると活力がみなぎってきます。

教会は神様のお心を聞けるところ、そうしていつも一緒にいてくださると感じるころなのです。

神様はどんな時でも見捨てることがなく、また、どんな時でも見守ってくださり、私たちに信じて赦してくださいませ。

目に見えなくても、手で触れることができなくても、それは心で感じていくのだと思っています。

一時、教会から離れていた私をも神様は迎え入れて下さり寄り添ってくださいました。

感謝です。

これからも私は今度は笑顔で神様とつながっていき、そうして今日も祈りの生活を続けていきます。